

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2018/06/13
SDS整理番号 04371130

製品等のコード : 0437-1130、0437-1120
製品等の名称 : ジチゾン (1,5-ジフェニルチオカルバゾン)
推奨用途 : 試薬 (Cu、Ag、Pb、Hg、Znの検出用)



2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性
皮膚腐食性/刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) : 区分2(腎臓)

注意喚起語 : 警告

危険有害性情報

皮膚刺激
強い眼刺激
腎臓の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

取扱い後は、よく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急措置】

皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。

眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に

外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診断、手当てを受けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診断、手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

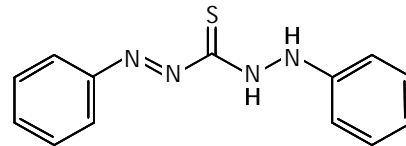
【保管】

日光を避け、容器を密閉し冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。



3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 単一製品

化学名 : ジチゾン

(別名) 1,5-ジフェニルチオカルバゾン、
(フェニルアゾ)(2-フェニルヒドラゾノ)メタンチオール、
1-フェニル-2-[メルカプト(フェニルアゾ)メチレン]ヒド
ラジン、
1,5-ジフェニル-3-メルカプトホルマザン、
1,5-ジフェニル-3-メルカプト-1,2,4,5-テトラアザ-1,3-

ペンタジエン、
1,5-ジフェニル-3-メルカプト-ホルマザン、
2-フェニルヒドラジノ(フェニルアゾ)チオケトン
(英名) Dithizone、1,5-Diphenylthiocarbazon、
1,5-diphenyl-3-thiocarbazon (EC名称)、
Diazene-carbothioic acid, 2-phenyl-,
2-phenylhydrazide (TSCA名称)、
(Phenylazo)(2-phenylhydrazono)methanethiol、
1-Phenyl-2-[mercapto(phenylazo)methylene]hydrazine、
1,5-Diphenyl-3-mercaptoformazan、
1,5-Diphenyl-3-mercapto-1,2,4,5-tetraaza-1,3-
pentadiene、
1,5-Diphenyl-3-mercapto-formazan、
2-Phenylhydrazino(phenylazo) thioketone

成分及び含有量 : ジチゾン、85%以上
化学式及び構造式 : C13H12N4S、C6H5N:NCSNHHC6H5、構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量 : 256.33
官報公示整理番号 化審法 : 未登録
安衛法 : 未登録
CAS No. : 60-10-6
EC No. : 200-454-1
危険有害成分 : ジチゾン

4. 応急措置

吸入した場合 : 呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
気分が悪い時は、医師の治療を受ける。
皮膚に付着した場合 : 直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。
速やかに、皮膚を多量の水と石鹸で洗う。
皮膚刺激などが生じた時は医師の手当てを受ける。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合 : 直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。
まぶたを親指と人さし指で拵げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。
次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外す。
その後も洗浄を続ける。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合 : 直ちに口をすすぎ、うがいをする。
大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。
意識がない時は、何も与えない。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状: 情報なし

5. 火災時の処置

消火剤 : 本製品は可燃性である。
水、粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素
周辺火災の種類に応じて適切な消火剤を用いる。
特有の危険有害性 : 火災によって刺激性、毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法 : 周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、空気呼吸器を含め完全な防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。
皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。
粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。
環境に対する注意事項 : 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
回収、中和 : 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。
漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。
回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に廃棄処分する。
後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
封じ込め及び浄化の方法 : 機材
二次災害の防止策 : 危険でなければ漏れを止める。
事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火災の禁止)。

着火した場合に備えて、適切な消火器を準備しておく。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。 粉じんの堆積を防止する。
局所排気・全体換気 安全取扱い注意事項	: 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの 取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 粉じん、蒸気、ガスを吸入しない。 眼に入れない。
接触回避	: 湿気、水、高温体との接触を避ける。
保管	
技術的対策	: 保管場所は耐火構造とし、出入口は施錠する。 保管場所は、採光と換気装置を設置する。
保管条件	: 光のばく露や高温多湿を避ける。 容器を密閉して冷暗所に保管する。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質	: 強酸化剤
容器包装材料	: ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラスなど

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない。
許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）:	
日本産衛学会（2017年版）	設定されていない。
ACGIH（2017年版）	設定されていない。
設備対策	: この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置 する。 取扱い場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	: 呼吸器保護具（防塵マスク）を着用する。
手の保護具	: 保護手袋（ニトリル製、塩化ビニル製など）を着用する。
眼の保護具	: 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用 する。
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 作業衣を家に持ち帰ってはならない。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	: 青味のある黒い結晶又は結晶性粉末
臭い	: 無臭
pH	: データなし
融点	: 分解（169）
沸点	: 分解
引火点	: データなし
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度（空気 = 1）	: データなし
比重（密度）	: データなし
溶解度	: 水にほとんど溶けない。 エタノールにやや溶けやすい。 クロロホルムにやや溶けにくい。 ジエチルエーテル、四塩化炭素に極めて溶けにくい。
オクタノール/水分配係数	: データなし
自然発火温度	: データなし
分解温度	: データなし
粘度	: データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	: 通常の取扱条件において安定である。 光のばく露により徐々に分解する。 クロロホルム及び四塩化炭素の溶液は緑で、空気に触れると酸化されて 次第に黒くなる。
-----	---

海洋汚染防止法 : 非該当
 水質汚濁防止法 : 生活環境項目（施行令第三条第一項）
 「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」
 〔排水基準〕160mg/L 以下（日間平均 120mg/L 以下）
 「窒素の含有量」
 〔排水基準〕120mg/L 以下（日間平均 60mg/L 以下）
 （注）排水基準に別途、条例等による上乗せ基準がある場合はそれに従うこと。
 輸出貿易管理令 : 別表第1の16項（キャッチオール規制） 第29類 有機化学品
 HSコード（輸出統計品目番号、2018年4月1日版）：2930.90-900
 「有機硫黄化合物 - その他のもの - 2その他のもの」

16. その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2012に準じ作成しています。